

母からの言葉

パソコンが普及し始めたころ、インターネットで何気なく同性愛について検索するうちに、同性愛についての講演会があることを知りました。その講演会に参加するうちに、僕はそこでスピーカーを務めるようになるのですが、母には、「講演会に行つてくるね」としか伝えていなかつたので、ただ誰かの講演会を聞きにいつているくらいにしか考えていました。

ただ後で聞いたら、母は、僕が同性愛者であることに気づいていたようです。母にカミングアウトしたとき、「あなたが異性愛者か同性愛者かどうかは問題じゃなくて、自分を高められる恋愛ができるかどうかが大切だよ」と言ってくれました。

父には、母から伝えてもらいました。父なりに葛藤はあったかと思いますが、今は受け入れてくれています。

逆カミングアウトしてほしい

友人へは、一部のごく親しい人を除いて、大学卒業後に出版した自叙伝を読んでもらうことでカミングアウトしたことになります。本を読んで理解してもらつたうえで、僕に接してくるので、とても恵まれていたと感じています。

でも大学時代に仲のよかつた友人には、「なんで僕にはカミングアウトしてくれなかつたんだ。あいつには打ち明けているのに…」と責められたこともあります。とても親しかつたので、打ち明けなかつたことが彼なりに傷ついたようです。

同性愛者に対する社会からのプレッシャーはあまりにも強いです。同性愛はいけないものだという思いが

ら、どうせみんなに受け入れてもらえないだろうと考えてしまい、なかなかカミングアウトに踏み切れません。

だから、同性愛に理解を持つてくれている人たちは、ただ心の中でフレンドリーなだけでなく、それをポジティブなメッセージとして外に発信してほしいと思います。いわば“逆カミングアウト”ですね。

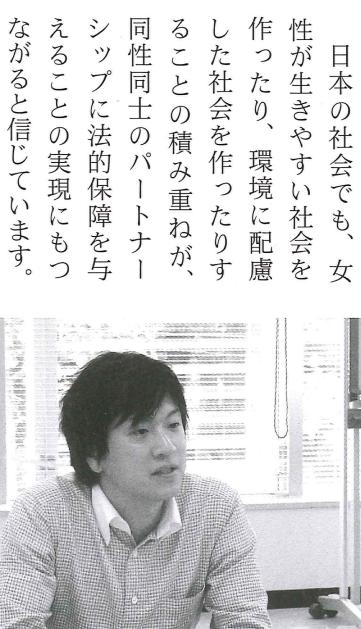
例えば何気ない会話のなかで、セクシュアルマイノリティについて話題にするとか、先生が授業のなかで一言触れてみるとか、そういうふたポジティブなメッセージを発信してくれることによって、僕たちは、この人なら話しても大丈夫だなと思うことができるんです。

人と人とのつなぐ活動を

カミングアウトしたことによつて全国的なつながりができ、当事者の仲間もできました。それまでは、否定的なことを言われたらどうしようと思つていたのが、仲間ができたことで、「あれもやつてみよう」「これもやってみよう」と積極的になりました。

社民党の福島みずほさん、セクシュアルマイノリティの勉強会やイベントでお会いしているうちに、勧められて政治の世界に入りました。

政治では、セクシュアルマイノリティとして生きてきた視点から活動していくみたいです。これまでセクシュアルマイノリティをつなぐ活動をしてきた経験を生かし、人とのつながりを再生する提案をしていきたいと考えています。



性を受け入れてもらって初めて、人は力を出し切ることができるんだと思います。

すべての人人が

生きやすい社会をめざして

世界ではヨーロッパを中心に、同性同士のパートナーシップに法的保障を与える同性婚などが次々と認められています。日本ではそういう制度はありませんが、各種調査により、日本でも4%前後の人

同性愛者だとわかつてきました。つまり学校のクラスには1~2人、板橋区だと53万人の人口に対し、2万人以上の同性愛者がいる計算で、実は身近なところにも多くの当事者がいることになります。

ヨーロッパで同性愛者の人権が認められている国では、女性の人権も認められていて、環境問題もきちんとと考えられています。

同性愛者の人権がどれだけ認められているかが、その国人権度を計るリトマス試験紙とともに言われています。同性愛者の人権が認められている国が、女性や障がい者の人たちが生きやすい社会だと言うことがききます。

日本の社会でも、女性が生きやすい社会を作つたり、環境に配慮した社会を作つたりすることの積み重ねが、同性同士のパートナー・シップに法的保障を与えることの実現にもつながると信じています。